

国際病理アカデミー 日本支部

A NEWS BULLETIN 2006 Number 3

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

T. Morohoshi, M.D. (06)
Showa University

PAST PRESIDENT

R.Y. Osamura, M.D. (06)
Tokai University

PRESIDENT-ELECT

H. Hashimoto, M.D. (06)
University of Occupational and
Environmental Health

SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (06)
National Defense Medical College

COUNCILLORS

H. Iwasaki, M.D. (06)
Fukuoka University

Y. Nakasato (06)
Gunma University

T. Manabe, M.D. (07)
Kyoto University

T. Sano, M.D. (07)
Tokushima University

M. Shimizu, M.D. (08)
Saitama Medical School

T. Nojima, M.D. (08)
Kanazawa Medical University

COMMITTEE CHAIR

Education, Chair
N. Nemoto, M.D. (06)
Nihon University

Education, Vice Chair
Z. Naito, M.D. (06)
Nippon Medical School

Finance
S. Nakamura M.D. (06)
Nagoya University

Nomination
R.Y. Osamura, M.D. (06)

Musee des Hospitalieres des l'Hotel Dieu の
前で、Dr. RA DeLellis, Dr. J Rosai, Mrs.
Matsubara and Mrs. DeLellis



XXVI International Congress of the IAP 開催される

日程は9月16日(日)から21日(木)の間、CanadaのMontrealのPalais des congres de Montreal/Convention centerで開催された。IAPの前身となるInternational Association of Medical Museum (IAMM)が1906年に発足してから今年が丁度100年の記念の年ということで、設立以来の貢献者であるDr. Maude Abbottの生誕地であるMontrealでの開催となった。思ったより寒くない、東京より少しだけ寒いかなと思う気候で、木々の色づきもほんの少し始まったかなという程度であった。1枚1枚色取りの違うガラス張りの、広い広いPalais des congresは、慣れないと迷いそうであった。

日曜日朝8時からいきなりプログラムが始まり、昼はKeynote lecture、昼休みは1時-2時で、午後は2時-5時30分とぎっしり詰まっていた。日曜日の夕方からOpening Ceremonyが開かれ、Jaubert 本部長の挨拶、Fraser コングレス会長、Applaman USCAP 会長の挨拶、歌、タップダンスなどを織り込んだ100年の歴史を振り返っての朗読が行われた。その後Receptionとなり、豊富な食べ物と飲み物が振舞われた。

プログラムはKeynote Lecture 4、Long Course 3、Short Course 16、Slide Seminar 20、Symposium 60と多いもので、各臓器を網羅し、また教育、医学史、HIV/AIDSなども取り上げられました。本学会のひとつは、印刷物の配布が極めて少ないことです。Congress Bagの中には、A4版のプログラム集(88ページと軽いもの)、Robin Cookeさんの編集になる"Scientific medicine in the 20th Century"なる本、Symposiumを収めたCD-ROMが1枚というものでした。例年分厚い冊子をたくさんもらってすぐ捨てていたことを考えると、大変よい試みと思いました。Slide SeminarもバーチャルスライドのDVDが送られてくるというものでした。どんどんこういう傾向になるのでしょうか。

月曜日の夕方はNotre-Dame Basilicaという豪華な教会の中でのConcertに全会員が招待されました。いわゆるアカペラで、オランダ、ドイツ、エストニア、英国、日本、ブラジルの曲が歌われました。赤とんぼ、五木の子守唄、さくらの日本の歌が3曲もでしたが、編曲されていて、原曲とちょっと違うけれどと感じましたが国際的にOpening Ceremonyのタップダンス、シンガーと演奏風景



なっているのでしょうか。
Notre-Dame Basilica での concert



火曜日の夜は Congress Dinner で、多数の円卓テーブルに大勢の参加者がにぎやかに歓談しました。料理はチキングリルが主体で、正直あまりおいしくはないと思いました。木曜日に Closing Ceremony が行われ、旗はギリシャの Kontogeorgos 次期コンGRESS 会長に渡されました。



学会の Medical History Tour という excursion で Osler Library と Musee des Hospitalieres des l'Hotel Dieu を訪ねました。Sir William Osler(1849-1919)は 8,000 冊もの医学書をまとめてここにありました。鍵のかかった嚴重な管理

の下にあり、Morgagni の本が陳列されていました。MDCCLXL 年出版ですが、これ何年か読めますか？ Sir Osler 自体が 800 体の解剖をして Medical Museum におさめたそうです。

Executive Meeting と International Council Meeting の報告

IAP 本部 Vice President 兼

IAP 日本支部前会長 長村義之

以下に私が出席した Montreal での IAP の会議の内容を簡単にご報告いたします。

IAP Executive Committee Meeting 9:30-15:00
September 15, 2006

1. President's report (by Dr. Francis Jaubert):

IAP が 100 周年の turning point にあることが指摘された。永年 IAP のために尽力されてきた Ms. Lea Shander が今回を以って引退することが紹介され、皆でその労をねぎらった。

2. Secretary's report (by Dr. Florabel Mullick) New Divisions として Anglophone West Africa, East Africa, Sri Lanka が承認された

3. Treasurer's report (by Dr. Jack Strong) Dues の納入状況、決算・予算が承認された

4. Vice Presidents' reports

JDIAP も含め各地域での活動が簡略で紹介された。

5. Education Committee (by Dr. Krintin Henry)

合計 36 の educational bursaries など教育支援活動が紹介された。

6. Report of the Editor of the News Bulletin (by Dr. Robin Cooke): Brisbane Congress 以後 8 編が編集された。Circulation は現在世界中に 23,000 配布されている。更に Division を紹介して行きたい。

7. International Congress Report

1. XXXVI International Congress in Montreal 2006/

2. XXXVII International Congress in Athens 2008 会長: George Kontogeorgos

3. XXXVIII International Congress in San Paulo 2010

8. Ratification and confirmation of XXXIX International Congress venue selection

2012 年の IAP 国際学会の誘致に関する Proposal presentation に引き続いて vote が行われ、Cape Town(South African Division)が 2012 年の候補地として International Council へ推薦されることになった。候補地は、

a. Thai Division-Bangkok,

b. German Division-Munich,

c. South African Division-Cape Town

Cape Town と Bangkok で決選投票が行われ、結果は非常に僅差であった。

9. Announcement of Gold medal of IAP (by Dr. David Hardwick): Gold medals の受賞者が紹介され承認された。

今回は、100 周年であり、個人のみならず IAP 機関誌の編集長などにも授与された。

10. Report of the Nominating Committee and Confirmation of Officers (by Dr. Shichiro Ushigome)

牛込委員長より以下の Officer が紹介され承認された。



President: H Konrad Muller

President-Elect: Florabel G Mullick

Past-President: Francis Jaubert

Secretary: David Hardwick

Treasurer: Jack P Strong



New President: H Konrad Muller

Vice Presidents:

Africa (two): Martin J. Hale, Jean-Marie Dangou

Asia (four): Robert Y Osamura (Japan), HK Ng (Hong Kong), Samir S Amr (Arab), Anata Borges

Australasia (one): Robert Eckstein (Australia)

Europe (four): Kristin Henry (UK), George Kontogeorgos (Greece), Gunter Kloppel (Germany), Jahn M Nesland (Norway)

North America (three): Harvey Goldman, Fred Silva (USA), Sylvia Asa (Canada)

South America (two): Eduardo Santini-Araujo, Marcello Franco

Editor, International Pathology: Robin Cooke

Director, International Congress: James P Crimmins

IAP International Council Meeting 9:00-12:00
September 16, 2006

Executive Committee Meeting での上記 1-10 が承認された。
会場からの意見:

1. 2012 年の候補地は承認されたが、次回から承認時に他の候補地も含め詳細を紹介して欲しい
2. News Bulletin of the IAP (International Pathology) は Website に掲載してもらえないか。経済的でもあり、会員へ送付する手間・負担も軽減される。



Closing Ceremony 12:00-13:00 September 22, 2006

1. XXXVI International Congress の Richard Fraser 会長が非常に感動的な挨拶をし、最後には感極まり、素晴らしいものであった。

また、タイムカプセルが封印され McGill 大学病理に保管されることとなった。また、Replica が Augusta の IAP 事務局にもおかれる。タイムカプセルは 100 年後に開封され現在の病理学 IAP が思い起こされる。

1. XXXVII International Congress の George Kontogeorgos 会長が挨拶した。会期は 2008 年 10 月 12 日 17 日 会場: アテネ。Fraser 会長から Kontogeorgos 次期会長へ IAP (Banner) が手渡された。
2. Francis Jaubert 会長が閉会の辞を述べ、散会した。
個人への Gold Medal は下の 4 人に



以上が、私が出席した会議のご報告です。最後に、タイの友人たちによるバンコクの誘致のプレゼンテーションが素晴らしかったのを、特に追加させていただきます。カナダでの最高の紅葉には 10 日程早かったようですが、街の木は少しずつ色が変わって行くのを感じながら、ホテルと会場を往来していました。今回は、単身でしたので、会場にいる時間も長く、古い友人とはより親しくなり、また新しい仲間も増やせたような気がしています。IAP の Executive Meeting から数えると長い滞在でしたが、睡眠時間を極めて短縮して発表の準備をしたり、充実した毎日でした。少しの余暇では、市内の Museum of Fine Art に行きカナダの画家の展示を楽しみました。以前に紹介してもらった Group of Seven の絵が数点あり、中でも Tom Thompson の絵はカナダの自然を描くものとして一見の価値があります。丁度今頃の山の紅葉の絵には感動しました。また、Notre Dame de Basilica 教会は、祭壇が青味がかかった照明がされており素晴らしく、大きなオルガンもいつか聞いてみたい誘惑に駆られるものでした。



2 年後のアテネでの XXXVII IAP Congress を楽しみに目指しながら、また友人と連絡を取りたいと思いながら帰国の途についています。(Montreal より帰国の機内にて)

秋山 太 (癌研究所乳腺病理)

第1回日本・台湾スライドカンファレンスの 開催、正式決定

日韓スライドカンファレンスと同じようなものを台湾との間とも開催してみてもどうかだろうかということが、ここ 2-3 年話されてきました。台湾支部発足の時に牛込本部会長、事務局もアドバイスした縁もありました。橋本次期会長と IAP 台湾初代会長の Dr. Kuo との話しあい、Atlanta での USCAP で長村前会長、松原と Dr. Ying-Tai Jin (National Cheng Kung University) とも相談しました。理事会でも今年の秋くらいに第 1 回をと検討してきました。台湾側から正式に開催すると決まってきたのでご案内します。

日時は 11 月 18 日 (土曜日) 9 時から 12 時

場所は Taipei, 会場についてはまだ連絡がありません

形式は、日韓のときと同じ要領で。両国から 5 例ずつ。

日本側の Presenter に対して、台湾側の Discussant が答え、逆に台湾の症例に対して日本側が答えるというものです。17 日 (金) にでかけ、18 日午後か 19 日に帰国といった予定で如何でしょうか。18 日の午後は excursion を考えています。是非皆様のご参加をお願いしたいと考えています。

参加希望、Speaker を引き受けてくださる方は、至急松原までご連絡をください。お願いします。

www.ams.edu.sg/iap2007

2006 年度病理学教育セミナーのお知らせ IAP 日本支部主催、日本病理学会後援

www.ams.edu.sg/iap2007

日時：平成 18 年 11 月 25 日 (土) 9:00? 17:15

場所：和歌山県立医科大学

(和歌山市紀三井寺 811-1)

世話人：覚道 健一

(和歌山県立医科大学・病理学第 2 講座教授)

教育シンポジウム 9:00? 12:00

今回の教育シンポジウムは、最近話題の前立腺癌の診断について、生検標本の Gleason score や最近のトピックスを含めて、病理診断業務において役に立つ内容を白石先生に企画していただきました。

主題：前立腺生検標本の Gleason score

モデレーター：白石 泰三 (三重大学)

1. 泌尿器科医は Gleason score をどのように利用しているか 内田 克典 (三重大学)
2. 前立腺針生検標本の鏡検・診断方法と鑑別診断 鷹橋 浩幸 (東京慈恵会医科大学)
3. Gleason 分類の歴史の変遷と今後の課題 原田 昌興 (神奈川県立がんセンター)
4. 2005 年 consensus conference による Update Gleason score について 都築 豊徳 (名古屋第二赤十字病院)
5. 症例供覧 一般病理医間で再現性の低い症例を中心に 小塚 祐司 (三重大学)
6. 総合討論

当日はご自由にご参加下さい (会場費 3,000 円、ハンドアウト代含む)。その時に病理専門医の更新に必要な参加証をご用意いたします。5 単位が得られます。

スライドセミナー?

1 時限目 13:00? 15:00

*A-1 軟部腫瘍

橋本 洋 (産業医科大学)

B-1 乳腺疾患の病理

C-1 非腫瘍性リンパ節病変

小島 勝 (群馬県立がんセンター臨床検査部)

D-1 子宮の腺系病変：診断の pitfall

清川 貴子 (慈恵医大病理学)

2 時限目 15:15? 17:15

*A-2 皮膚付属器腫瘍

清水 道生 (埼玉医科大学)

B-2 腎・尿路病変の病理

金城 満 (新日鐵八幡記念病院病理部)

C-2 上部消化管の腫瘍性病変

二村 聡 (福岡大学医学部病理学)

D-2 肝臓の小結節性病変の病理

中沼 安二 (金沢大形態機能病理学)

* 印は新規のものです。

病理専門医の資格更新単位として 10 単位が得られます。受講料：1 コース IAP 日本支部会員 6,000 円、非会員 8,000 円です。

和歌山県立医大覚道先生のご好意でお世話になります。素晴らしい設備です。新幹線新大阪駅から特急で和歌山駅へ、or 関西国際空港からリムジンバスで和歌山駅が便利だそうです。和歌山駅からだとバス「医大病院」行きで約 25 分、JR 紀三井寺駅まで二駅でそこからだと歩いて行けます。

Homepage を立ち上げられています。http://www.convention-j.com/jsp52/index.html です。

2006 病理診断セミナー

2006 年 10 月 21-22 日、東京医科大学病院、問い合わせ先：東京医大病理診断学講座 向井 清 kmukai@tokyo-med.ac.jp
主題は Current Topics in Diagnostic Pathology

第 5 回東京泌尿生殖器病理組織講習会

2007 年 1 月 19-21 日、東京慈恵医大西新橋校、問い合わせ先：慈恵医大病理 中野雅貴 mnakano@jikei.ac.jp
主題は前立腺・膀胱・精巣腫瘍と非腫瘍性疾患。鏡顕、フリーディスカッション、CD-R 配布、飛び込み consultation 受付。

5th Asia Pacific International Academy of Pathology Congress and Chapter of Pathologists

May 27 - 31, 2007 Singapore
www.ams.edu.sg/iap2007

IAP XXVII International Congress

October 12-17, 2008 Athens, Greece
www.iap2008.com

あとがき：虫の音に秋の気配ですね。2006 年度第 3 号をお届けし、同時に本部のブレティンを同封します。また、第 46 回 IAP 日本支部総会の出欠のお葉書、雑誌の購読申込書を同封します。どうぞお早めにお返事ください。なお、雑誌 Lab Invest と Mod Pathol が US\$85 と値上がりし、10,000 円ですと事務局の赤字になってしまうので、11,000 円へ値上げさせて頂くことをご承知ください。長らくお待ちさせた Homepage 作成がもうすぐです。また、もうすぐ会員名簿と理事選挙関連の資料、投票のお葉書を送ります。

常任幹事：松原 修 / 事務局：佐々木洋子
〒359-8513 所沢市並木 3-2 防衛医科大学校病態病理学
P: 04-2995-1507 / F: 04-2996-5193
E-mail: matubara@ndmc.ac.jp